

うてむしやうをよび所々のせちくをする事、

〔年中行事秘抄七月〕七日、御節供事内膳司内藏寮酒肴事

〔後水尾院當時年中行事上月〕七日、○中略けふの御料にて、前一兩日の中、上らふより、ちの輪を調進せらる、御所にて女中衆にたぶ、おのく、袖につけらる、主上のも進上あれど、御そでにつけらる、までの事はなし、二親有人は輪三金銀紅、かた親ある人は輪二金銀、二親ともになき人は輪一金銀、朝盃あさがれひ等例のごとし、夕方御祝に初獻そろ御汁を供す、土器ニ少シ御汁をうけられて後、少シづ、三口めす、御かへ参る、又二口めす、次に索餅を供す、是も御はし下る、次に御盃参る、二獻御ま三こんうりを供す、女中御前のをしきに半そろく、なかばは索べい入てたぶ、三獻の唐瓜も御ばんに入てもて出で一纏づ、たぶ、

〔延喜式三十九〕七月七日

米糰米各六升、糰糊八斗、粟糊三升、黍子小麥各六升、小豆一升、酒二斗、酢油各五升、醬一斗、鹽一升、東鯛一斤十兩、隱岐鯛二斤五兩、烏賊螺各一斤五兩、煮堅魚十三兩、腊五斤、紫菜四兩、海藻一斤、籠一具、炭四石、薪六百斤、

〔厨事類記一〕臨時供御内院宮儀○中略七月七日 索餅 御菓子八種 蘇實 小豆中略已上小預給 料米備進之、

〔日本書紀三十一持統五年七月丙子〕○七日宴公卿、仍賜朝衣、

〔續日本紀十一聖武〕天平六年七月丙寅○七日天皇觀相撲戲、是夕徒御南苑命文人賦七夕之詩、賜祿有差、

〔大日本史十六聖武〕七夕宴、至此始見、後世乞巧奠即是也、故此後不書、公事根源以爲天平勝寶七年始修乞巧奠然本書所不載、故不取、

〔續日本紀十三聖武〕天平十年七月癸酉○七日天皇御大藏省覽相撲、晚頭轉御西池宮、因指殿前梅樹勅右